

《担当者名》○福田真二 fukuda@hoku-iryo-u.ac.jp 小林健史 柳田早織

【概要】

言語とは、生物種の中でヒトのみが持っている非常に高度なコミュニケーション能力である。この言語の獲得過程を、発達の時系列に沿って学ぶ。

【学修目標】

【一般目標】

言語の発達過程を、時系列に沿って理解する。

【行動目標】

1. 言語発達障害を評価・治療するための基礎的な知識として、定型発達児の言語発達について理解し、述べることができる。
2. 構音・音韻、語彙、文法・統語、語用・談話に関する能力の発達過程を理解し、述べることができる。
3. 言語発達の基盤となる生物学的要因と環境要因について理解し、述べることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学修目標、講義日程、学修内容、評価方法、読書課題、教科書、推薦図書、学修の準備、オフィスアワーの活用法を理解する。	福田真二
	はじめに	言語発達の諸事実	
2 }	コミュニケーション能力の発達	前言語期から初語期にかけてのコミュニケーション能力の発達について学ぶ。	小林健史
3			
4 }	音韻能力の発達	前言語期から言語期にかけての音韻発達過程について学ぶ。	柳田早織
5		声遊び/規準喃語/子音の習得	
6	語彙発達	初語から1歳半頃までの語彙発達の第1段階の特徴について学ぶ。	福田真二
7	語彙発達	1歳半頃以降の語彙発達の第2段階の特徴について学ぶ。	福田真二
8	統語能力の発達	2歳以降の統語能力の発達について学ぶ。	福田真二
9	文法能力の発達	2歳以降の文法能力の発達について、格助詞の獲得を中心に学ぶ。	福田真二
10	語用能力の発達	学童期以降も続く語用能力の発達について学ぶ。	福田真二
11	談話能力の発達	学童期以降も続く談話能力の発達について学ぶ。	福田真二
12	読み書き能力の発達	読み書き能力の発達について学ぶ。	小林健史
13 }	第2言語習得	第2言語（外国語）習得と第1言語（母語）獲得の関係について、バイリンガリズムを中心に学ぶ。	福田真二
14			
15	言語発達理論	言語発達を説明する理論について学ぶ。	福田真二

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】

岩立志津夫 他 編 「よくわかる言語発達 改訂新版」 ミネルヴァ書房 2017年
石田勝義 他 編 「あたらしい言語障害のみかた・治療・教育」 古今社 2014年
岩田一成 他 編 「言語学・言語発達学」 メディカルビュー社 2022年
小林春美 他 編 「新・子どもたちの言語獲得」 大修館書店 2008年
秦野悦子 編 「ことばの発達入門」 大修館書店 2001年
伊藤克敏 著 「ことばの習得と喪失：心理言語学への招待」 勁草書房 2005年
伊藤克敏 著 「こどものことば：習得と創造」 勁草書房 1990年
Gleason, J. B. 他 著 The development of language, 10th edition. Plural Pub Inc. 2023年
Foster-Cohen, S. H. 著 An introduction to child language development. Routledge 1999年

【備考】

講義に関する連絡は、manabaまたはGoogle Classroomを使用します。

【学修の準備】

予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。（80分）

復習は、講義の学修内容をまとめた勉強ノートを作成すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。